

## ◆カリキュラム (本項目は2017年度以降入学生向けです。2016年度以前入学生は別ファイルを参照してください)

### 教育課程について

キャリアデザイン学部の授業は「ILAC科目／市ヶ谷基礎科目」と「専門科目」で構成されており、これを4年間に配当して授業を実施しています。また、教員免許や各種の資格取得を希望するみなさんのために、教職・資格に関する科目が設置されています。

1年間の授業は約28週で、春学期・秋学期の2セメスターに分けられています。学士の学位を得るためには、4年以上（最長8年）在学し所定の単位を修得しなければなりません。学士の学位取得に必要な単位数およびその内容に関する規程はきわめて厳格なものであり、1単位の不足があっても学士の学位を得ることはできません。

学生のみなさんが科目の履修をする際はこの「履修の手引き」をよく読み、誤りのないよう十分注意してください。

### 単位制度と単位修得

単位制度とは、授業科目を所定の時間学修し、それぞれの授業科目に付与されている単位を修得していくことです。単位の修得は、履修登録をした科目について、所定の授業を受けたうえで、平素の学習状況、筆記試験、レポート、論文等による成績評価の結果、合格した場合に与えられます。修得した単位の合計数が一定の要件を満たした学生に対して卒業が認められます。

大学設置基準には、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする旨が記載されています。各授業科目の単位数は、授業時間の他、授業時間外の自習（予習・復習）時間を持つことを前提に定められています。

本学における教育課程はすべて単位制度を採用しています。各授業科目の単位数は文部科学省の定める次の基準に従っています。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。

上記の時間数には授業時間のほか、予習・復習および実習授業の準備などの時間を含んでいます。

単位は、履修科目を登録し授業を終了した科目について、平素の学習状況、出席状況、筆記試験やレポート・論文提出による成績評価の結果、合格した場合に与えられます。

卒業所要単位～卒業するためには～

卒業して学士（キャリアデザイン学）の学位を得るためには、在学年限内にILAC（アイラック）科目と専門科目について下記の単位規定をすべて満たさなければなりません。

卒業所要単位（2017年度以降入学者用）

科目系列				必要単位数			
I L A C ( ア イ ラ ク ク リ ク ル 目 )	1 0 0 番 台	基 幹 科 目	0群	必修	2単位 (基礎ゼミ)	16単位 以上	36単位 以上
				選択			
			1群	選択 必修	4単位以上		
			2群	選択 必修	4単位以上		
			3群	選択 必修	4単位以上		
		5群	必修	2単位 (スポーツ総合演習)	上限2単位		
			選択				
	外国語科目	4群	英語	必修	4単位以上	8単位 以上	
			諸外国語*5	必修	4単位以上		
	2 0 0 番 台	リ ベ ラ ル ア ー ツ 科 目	0群	選択		6単位 以上	
			1群	選択 必修	2単位以上		
			2群	選択 必修	2単位以上		
			3群	選択 必修	2単位以上		
			4群	選択			
5群			選択				
外国語科目	4群	英語 諸外国語 共通*6	選択				
専 門 科 目	学部専門科目	基幹科目	必修 (キャリアデザイン学入門) (キャリア研究調査法入門)	4単位	20単位以上	72単位 以上	
			選択必修 (キャリア研究調査法)	2単位以上			
			選択必修 (入門系科目)	6単位以上*1			
			選 択				
	展開科目		52単位以上 (*1で選択した領域から、36単位以上含む) (体験型選択必修科目4単位(1ペア)以上含む)				
	演習科目*2						
	関連科目						
	自由科目*3	他学部公開科目					
		ERP科目*4					
		ESOP科目*4					
グローバル・オープン科目							
インターン・ボランティア*4							
短期語学研修*4							

\*1 基幹科目の入門系科目のうち、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」から1つの領域を選択し、その選択した領域で6単位を修得しなければなりません。

\*2 基幹科目（入門系科目）および展開科目で選択した領域と同じ領域を選択しなければなりません。

\*3 自由科目は卒業所要単位として16単位まで修得可能です。

\*4 グローバル教育センター設置科目です。必要手続きを経て単位認定を行います。

\*5 留学生は、日本語を履修する。

\*6 留学生は、英語（のみ）を履修する。

**注意** 1. 学部専門科目は、基幹科目、展開科目、演習科目、関連科目に大別され、科目群によっては必修科目や選択必修科目があります。必修科目はすべて単位を修得しないと卒業の要件を満たしません。選択必修科目とは、予め指定された科目群の中から所定の単位数以上の修得が条件とされている科目のことです。

2. I L A C科目と学部専門科目のそれぞれ最低必要単位数を合計すると108単位(=36+72)になります。卒業所要総単位数との差24単位(=132-108)については、I L A C科目、専門科目(学部専門科目および自由科目)のいずれから修得しても構いません。

3. 休学者の進級および卒業については別掲「市ヶ谷共通項目」の「学籍」のページを確認してください。

4. 3年次終了までに卒業所要単位を修得していても、4年次に4単位以上を修得しなければ卒業することはできません。(進級に関する規程参照)

5. 必要単位数欄が空欄になっている系列の科目は、仮に単位の修得がなくても他の系列の科目によって右側に示されている必要単位数を修得していれば卒業の要件を満たせることを表しています。

(※) 前ページの「卒業所要単位」の表は各「科目系列」ごとに科目を履修し合計して何単位取得すると卒業要件を満たすかを示したものです。さらにそれらの科目のうちに4単位分の「体験型選択必修科目」を含んで履修し単位を取得することも併せて卒業要件となっています。それらの科目は後述の「体験型選択必修科目」一覧表に示すものですが、春学期・秋学期とも表に示した科目をペアで、かつ「事前指導」や「I」を先に履修し単位を修得した後「実習」や「II」を履修しそれぞれ2単位、合計4単位取得することが卒業要件となります。これらのペア科目は定員を定めています。年度末のガイダンスに出席し、履修希望申請書を必ず提出してください。これらのペア科目は2年次から履修できます。できるだけ他の学部専門科目の履修に影響が少ない2年次に履修することを推奨します。

#### 「体験型選択必修科目」一覧

年次	春学期+秋学期でペアとなる科目		定員 (予定)
	春学期科目名 (各2単位)	秋学期科目名 (各2単位)	
2年～	キャリアサポート事前指導	キャリアサポート実習	20×4クラス
	キャリア体験事前指導	キャリア体験学習	25×4クラス 30×1クラス
	キャリア体験事前指導(国際)	キャリア体験学習(国際)	10×2クラス
	多文化教育Ⅰ	多文化教育Ⅱ	45
	メディアリテラシー実習Ⅰ	メディアリテラシー実習Ⅱ	16
	地域学習支援Ⅰ	地域学習支援Ⅱ	35

## 進級に関する規程

キャリアデザイン学部において進級するためには、各年次2 Semester在学し、各年次で下記の単位規定を満たさなければなりません。1単位でも不足したり間違いがあったりすると、進級できないので注意してください。

### 進級に関する規程(キャリアデザイン学部)

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに24単位以上修得していなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次修了までに次の各号に定める単位を修得しなければならない。ただし、SSI所属学生は第1号のみ適用する。

(1) 第2年次修了までに48単位以上

(2) 基幹科目の必修科目(キャリアデザイン学入門)(キャリア研究調査法入門)

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の各号に定める単位を修得しなければならない。

(1) \*市ヶ谷基礎科目のうち4群及び5群の卒業所要単位

(2) 前号の単位を含め88単位以上

第4条 4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。但し、法政大学学則第49条第4項に定める場合を除く。

第5条 進級は学年度初め(4月1日付)をもって行う。

\*進級に関する修得単位数に教職・資格科目(卒業要件外科目)は含みません。

※2017年度以降入学者は、「I L A C科目」として履修します。

<参考>

法政大学学則第49条

第49条 4 ヶ年以上在学し、卒業所要単位を修得した者には、学士の学位を与え学位記を授与する。

2 前項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は学年末に行う。但し、本人の申請により春学期末に行うことができる。

3 前項の規定にかかわらず、秋学期に入学し、第1項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は春学期末に行う。但し、本人の申請により秋学期末に行うことができる。

4 第1項の規定にかかわらず、3 ヶ年以上在学し、卒業所要単位を優秀な成績で修得した者は学士の学位を与え、学位記を授与することができる。

5 前項の早期卒業に関する要件は別に定める。

6 前5項における卒業の確定日は、学年末は3月24日とし、春学期末は9月15日とする。

(以下、省略)

## 履修登録が可能な単位数について

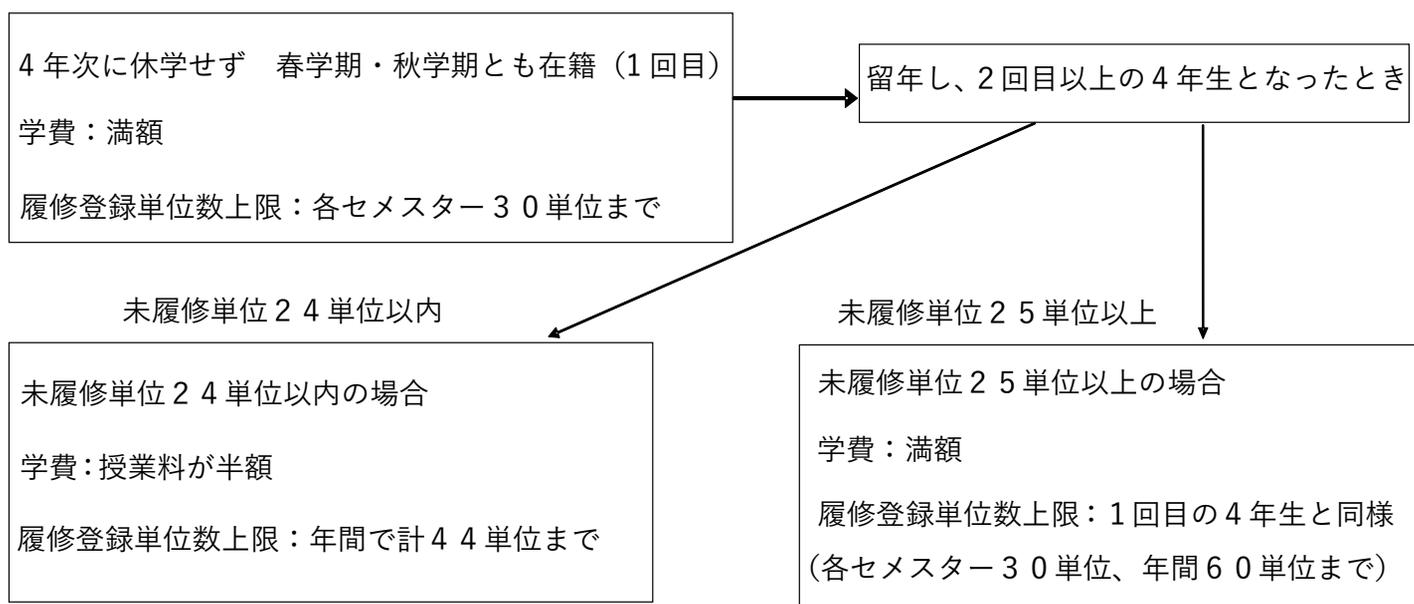
履修登録には次のようなルールがあります。

履修登録を怠ったり履修エラーを未修正で放置したりすると授業・試験を受けても単位は修得できませんので、注意してください。

4年次においてセメスターを2期在籍した学生で、留年して2回目以降4年生になった場合に履修登録できる単位数

- (1) 未履修単位24単位以内の場合：年間で計44単位まで
- (2) 未履修単位25単位以上の場合：各セメスターおよび年間の履修制限単位数まで

4年次においてセメスターを2期在籍した学生で、留年して2回目以降の4年生になった場合の学費および履修できる単位は、次のとおりです。



### 1 セメスター・年間の登録上限単位

各セメスターに履修登録できる単位数には上限があります。単位は週あたりの学習時間によって決められています。それゆえ、一定の期間に無制限に単位修得できるわけではありません。

キャリアデザイン学部では、各セメスターおよび年間（2つのセメスター）での履修登録において、科目の系列ごとに登録単位の上限を設けています。

### 2 単位数上限について

#### ① I L A C科目と専門科目

合計で、半期30単位・年間48単位を上限として、履修登録することができます。

#### ②教職・資格科目を履修する場合

教職・資格科目のうち、教職資格課程表や資格課程開設科目表（それぞれ教職課程履修要綱や資格関係科目履修要綱に掲載）上で、科目名に■が付いている科目は卒業所要単位とはなりません。

それらを履修する場合、上記①と合わせて半期30単位・年間60単位を上限として履修登録できます。

## 社会人入学者（1年次入学者）の皆さんへ

### 既修得単位の認定について

キャリアデザイン学部では、通学や学習時間に制約の多い社会人入学者（社会人特別入試で入学された方）に対して、余裕を持って学習してもらうための措置として、既修得単位の認定制度を設けています。

本学部入学以前に大学・短期大学を卒業している場合、その在籍時に修得した授業科目が本学部で設置している科目に相当すると認められた場合、その単位を本学部の卒業所要単位として最大30単位までの範囲で認定することができます。またその場合、本学部で履修できる単位数は、最大履修単位数192単位から認定された単位数を差し引いた数となります。

なお、この単位認定制度は入学時に単位認定を希望した方のみ適用されます（追加認定は行いません）。また、単位の認定は、教授会における審査により行いますので、修得された単位が全て認定される訳ではありません。

認定には手続きが必要ですので、入学後にWeb掲示板を確認してください。

カリキュラム構成図

キャリアデザイン学部 カリキュラム構成図(2017年度以降入学者用)

ILAC(アイラック) 科目			
21ページ以降のILAC (アイラック) 科目カリキュラム表を参照してください。			

基幹科目			
キャリアデザイン学入門 キャリア研究調査法入門 キャリア研究調査法(質的調査)(量的調査) 発達・教育キャリア入門A・B	発達・教育キャリア入門C(生涯学習入門Ⅰ) 発達・教育キャリア入門D(生涯学習入門Ⅱ) ビジネスキャリア入門A～D ライフキャリア入門A～D	労働法 ファシリテーション論 若者の自立支援 職業選択論Ⅰ	ライフコース論 生活設計論Ⅰ(社会保障) 生活設計論Ⅱ(生活設計) キャリアモデル・ケーススタディ

展開科目			
開 体 験 型 科 目	キャリアサポート事前指導 キャリアサポート実習 多文化教育Ⅰ・Ⅱ	キャリア体験事前指導 キャリア体験学習 キャリア体験事前指導(国際) キャリア体験学習(国際)	メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ 地域学習支援Ⅰ・Ⅱ
	発達・教育キャリア	ビジネスキャリア	ライフキャリア
	キャリア研究調査実習A キャリア研究調査実習B 外書講読A(発達・教育) 外書講読B(発達・教育) 生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ 臨床教育相談論Ⅰ・Ⅱ キャリアカウンセリングⅠ・Ⅱ キャリアカウンセリングⅢ(ケーススタディ) 教育相談 教育心理学	キャリア研究調査実習C キャリア研究調査実習D 外書講読A(ビジネス) 外書講読B(ビジネス) 職業選択論Ⅱ 人材育成論Ⅰ・Ⅱ 産業・組織心理学Ⅰ・Ⅱ キャリア開発論 リーダーシップ論 経営統計論A(心理データ)	キャリア研究調査実習E キャリア研究調査実習F 外書講読A(ライフ) 外書講読B(ライフ) コミュニティ社会論Ⅰ・Ⅱ 家族論 若者文化論 世代間交流論 身体表現論 地域文化論 アイデンティティ論 余暇集団論
	学校論Ⅰ(キャリア形成) 学校論Ⅱ(キャリア形成) 学校論Ⅲ(キャリア教育) 学校論Ⅳ(キャリア教育) 生涯学習論Ⅰ(生涯学習支援論Ⅰ) 生涯学習論Ⅱ(生涯学習支援論Ⅱ) 図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ メディア教育論Ⅰ・Ⅱ 教育マネジメントⅠ・Ⅱ	企業会計論 経営統計論B(企業データ) 経営組織論Ⅰ・Ⅱ 戦略経営論Ⅰ・Ⅱ 経営分析論Ⅰ・Ⅱ アントレプレナーシップ論Ⅰ・Ⅱ	NPO論 公共サービス論 アート・マネジメント論 文化経営論 メディア文化論 文化マーケティング論 ブランド創造論 産業文化論 ミュージアム概論 ミュージアム経営論
教育政策 現代教育思想 生涯学習論Ⅲ(成人教育論Ⅰ) 生涯学習論Ⅳ(成人教育論Ⅱ) 学習の社会史A・B 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 教育経済学	職業キャリア論 労働経済学 シティズンシップ論 生産システム論 国際経営論 日本経済論 産業論 広告ビジネス論 マーケティング論 流通・マーケティング戦略論 流通・サービスビジネス論 就業機会発見実務	多文化社会論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ アジア社会論Ⅰ・Ⅱ 国際関係論Ⅰ・Ⅱ 国際地域研究Ⅰ・Ⅱ	
総 合	就業機会とキャリア 職業能力ベーシックスキルⅠ・Ⅱ		

演習科目		
演習(発達・教育、ビジネス、ライフ)	卒業論文(発達・教育、ビジネス、ライフ)	キャリアデザイン学総合演習

関連科目			
国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ～Ⅴ) スタディ・アブロードⅠ～Ⅳ 就業機会とキャリア特講 地域活性化論 就業応用力養成Ⅰ・Ⅱ 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 監査論Ⅰ・Ⅱ	税務会計論Ⅰ・Ⅱ 管理会計論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ 経営分析Ⅰ・Ⅱ 異文化適応論 市民社会と政治 労働環境法	社会貢献・課題解決教育 教職入門 教育原理 教育の制度・経営 教育課程論 教育方法論 図書館演習	図書館サービス概論 ミュージアム教育論 情報サービス演習 社会教育演習 図書館情報資源概論 現代生活・文化と社会教育Ⅰ・Ⅱ 図書館情報資源特論 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 ミュージアム資料論

自由科目					
他学部公開科目	ESOP科目	ERP科目	グローバル・オープン科目	インターン・ボランティア	短期語学研修